

2

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-117564

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)5月10日

H 04 N 1/00
G 07 C 1/00

Z-7334-5C
D-6727-3E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 ファクシミリ装置

⑯ 特 願 昭62-275274

⑰ 出 願 昭62(1987)10月30日

⑱ 発 明 者 安 田 信 之 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 井出 直孝

明 細 書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

(1) カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダーを備えたファクシミリ装置において、

上記カードリーダーでカードの読取りが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段と、

上記第一信号と上記第二信号とを組にして記憶するメモリと、

このメモリの内容をファクシミリ信号として送信する手段と

を備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ファクシミリ装置の付加手段に関する。

〔概要〕

本発明は、カードリーダーを備えたファクシミリ装置において、

このカードリーダーに挿入されるカード上の個人を特定する登録番号とこのカードの挿入時刻および日時とを組にして記憶する手段を備えることにより、

ファクシミリ装置をタイムレコーダとして利用し、しかもその情報を遠隔送信できるようにしたものである。

〔従来の技術〕

従来例装置のカードリーダーは例えば部門別の通信量の管理用として使用していた。すなわち、部門別の登録番号を記録したカードをファクシミリ装置のカードリーダーに通し原稿送信時またはコピー時ごとにその登録番号を識別し、送信枚数、コ

特開平 1-117564 (2)

ピー枚数および通信時に費やした課金データを月単位で内部に記憶し、必要に応じて各部門別の前記各データをフォーマットして統計的データとして出力させていた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

このような従来のカードリーダを有するファクシミリ装置は、カードの利用方法が通信量の管理のみに限定されコストパフォーマンスが低い欠点がある。

本発明はこのような欠点を除去するもので、個人の入退場管理もあわせて行うことができるタイムレコーダに代行する手段を有するファクシミリ装置を提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダを備えたファクシミリ装置において、上記カードリーダでカードの読取りが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段と、上記第一信号と、上記第二信号とを組にして記憶するメモリと、このメモリ

の内容をファクシミリ信号として送信する手段とを備えたことを特徴とする。

〔作用〕

既存のファクシミリ装置のカードリーダに個人を特定する登録番号の記載されたカードを挿入すると、この登録番号とともに挿入時刻および日付にかかわる情報がメモリに記憶される。このメモリの内容は自装置のプリンタに印字され、またはリモートのセンタにファクシミリ情報として送出される。

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面に基づき説明する。第 1 図は、この実施例の構成を示すブロック構成図である。

この実施例は、第 1 図に示すように、カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダ 1 と、カードリーダ 1 でカードの読込みが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段を含む制御部 4 と、上記第一信号と上記第二信号とを組にして記憶するメモリであるデ

ータメモリ 2 と、このメモリの内容をファクシミリ信号として送信する手段である四線インタフェース 3 とを備える。

次に、この実施例の動作を第 1 図および第 2 図に基づき説明する。操作部 5 からのタイムカードとしての読取りを指示する操作指示 14 を受けた制御部 4 はカードリーダ制御信号 15 に基づきカードリーダ 1 でカードの固有の登録番号を読み取らせ、固有の登録番号データ 11 としてカード読取時の計時データ 17 と共にデータメモリ制御信号 16 に基づきデータメモリ 2 へ書き込む。操作部 5 で固有の登録番号に対するプリントアウト指示をする操作指示 14 を受けた制御部 4 はデータメモリ制御信号 16 に基づきすでに登録されている固有の登録番号と計時データをタイムカードとしてのフォーマットを行い、プリントアウト情報 19 としてローカルのプリンタ 6 へ出力する。ここで、固有の登録番号とは、例えば個人の社員番号であり、計時データとは、例えば入退場の日時データであり、月別に集計された表として出力される。また、セ

ンタマシンからポーリングを受けると、回線インタフェース 3 からのポーリング指示 18 に基づき制御部 4 からのデータメモリ制御信号 16 をデータメモリ 2 に与え、データメモリ 2 内のタイムカードデータ 12 は回線インタフェース 3 を介して回線データ 13 として取り上げられる。

〔発明の効果〕

本発明は、以上説明したように、カードリーダから読み取った固有の登録番号とカード読取時の日時を示す計時データとをデータメモリに記憶させておくので、ローカルでデータメモリをダンプして出勤状況の確認やセンタマシンからのポーリングにより個人別の月別タイムカードを容易に集計することができ、タイムレコーダなどの設備を設けることなく入退場の管理などを可能にする効果がある。

4. 図面の簡単な説明

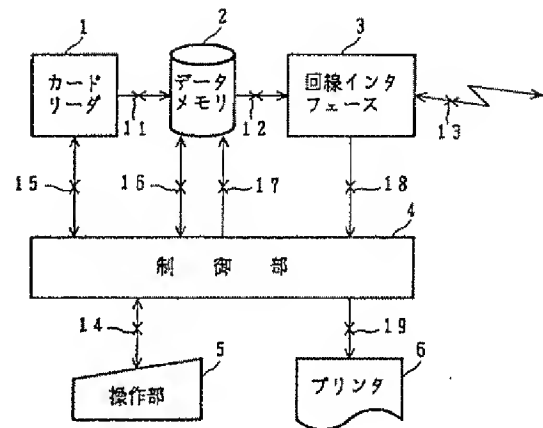
第 1 図は本発明実施例の構成を示すブロック構成図。

特開平 1-117564 (3)

第 2 図は本発明実施例の動作を示すフローチャート。

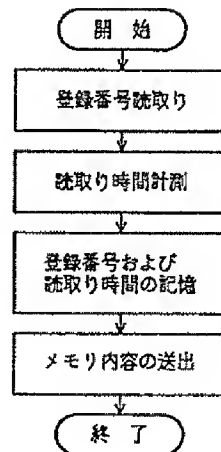
1…カードリーダー、2…データメモリ、3…回線インタフェース、4…制御部、5…操作部、6…プリンタ。

特許出願人 日本電気株式会社
代理人 弁理士 井出直孝



実施例の構成

第 1 図



実施例の動作

第 2 図